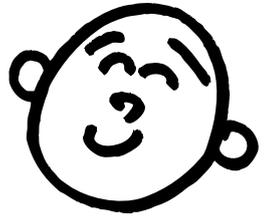




たかやんの市議会報告



新座市市議会議員 たかむらともや 総務常任委員 語る会]
ホームページ <http://www.takayan-world.com/cheeringparty/>

2007年 10月発行

③ 議員定数削減！

9月議会が一番大きな話題は、やはり議員定数削減でしょう。来年2月の選挙から30名の定数が26名になるのですから大変です。

私は一人会派で「議会改革特別委員会」には参加できませんでした。しかし、一貫して24名を主張してきました。4つの委員会を平等にみなして、活動できる最低の単位が6人との判断からです。自民党・公明党の各会派は「経費削減」が一番の理由にあげていましたが、議員の報酬は市の職員の年収の平均以下なのですから、その影響は疑問です。

私が賛成した一番の理由は、「議会の緊張感の欠如」にあります。9月議会を傍聴した市民から「午前中から5人も寝ている！」と恥ずかしい指摘を受けましたが、午後になるとさらに10人増える現実があります。この3年半、本議会ですべてチェックしてきましたが、一度も寝なかった議員は、私を含めてほんの数名です。市長が目の前で話をしているのに、一番前で眠る議員もいるのですから、酷いものです。

③ 議員の仕事

寝ていては、執行部のチェックは出来ません。寝ていては、市民の声を届けられません。寝ていては、市民にまともな報告はできません。30名が50名いたって、寝ている議員が多ければ、議員の仕事はゼロに近い。いや、マイナスかも知れません。「チェック機能」のない議員は市民の税金を無駄遣いすることに加担しているのですから……。

この改革で30名が26名になり、議場で眠る議員が削減されれば、この議会改革は成功だと言えるでしょう。議場で寝ないようにするのは簡単なことです。発言すればいいのです。分からなければどんどん質問すればいい。学校の教室と同じです。世の中に発言しながら眠れる人はいませんから……。

③ 討論

今回の議員定数削減案に対する討論は実に10名。最初に反対討論をしたのが小鹿さん、賛成討論が森田さん、反対討論が保坂さん、賛成が細田さん、反対が星川さん、賛成が平松さん、反対が笠原さん、賛成が亀田さん、反対が中田さん、そして賛成が高邑（語る会）と今までで、討論の数では間違いなく最多の議案になったのです。自分たちの生活に直接関係がある議案だとこれだけ意見がでるのです。この討論中、寝ている議員は一人もいませんでした。

③ 教育問題 3特別支援教育

（一般質問のつづき）

東松山市では来年度から就学委員会を廃止し、障害を持った子ども達も全員希望する学校に行けるようになった。新座市では特別支援教育をどのような方向で考えているか。

* この質問は11月25日号の市の議会だより」に掲載予定ですが、教育長の答弁には本当に失望しました。「共育」の意味も「ノーマライゼーション」の意味も理解できていないと感じました。東松山市の施策を「ある意味ではパフォーマンス上手だなと思う」という金子教育長には本当にかっかりです。

③ 東松山市の取り組み

東松山市では普通の保育園に看護師を配置したので、全ての障害児は保育園か幼稚園に通えるようになりました。その為に市内の「障害児通園施設」は16年3月に閉園になりました。

学齢期に達した子友達の障がいのある子ども達の75%が現在地元の学校に通っています。

そして就労支援センターでは3年間で110名の障害者が一般就労を果たしているのです。決してパフォーマンスなどではないのです。